

韓国語

【単位数:1単位, 授業13コマ(定期試験含まず)】

1 科目責任者

平田亜紀 准教授(外国語)

科目担当者

朴 成柱(非常勤講師)

2 教育目標

(1) ねらい(I-2-c, I-5-c, II-1-c, II-2-c)

- ① コアコンピテンスの「他者の多様な価値観を尊重できる」,「患者と家族の心理・社会的背景を理解し,全人的に対応できる」,「患者・家族・医療チームメンバー・住民・社会と良好な関係を構築できる」ために,また「心理・生活・文化的背景を適切に把握するための,支持的・共感的なコミュニケーションをとることができ」るようになるために,外国語でのコミュニケーション能力を高めるとともに,異文化に対する理解を深める。
- ② 個や集団に及ぼす文化・慣習による影響(コミュニケーションの在り方等)が理解できるようになる。

(2) 学修目標

- ① 患者やその家族のもつ価値観や社会的背景が多様であり得ることを認識し,柔軟に対応できる。
- ② 良好的な人間関係を構築するために必要なスキルとして,開講される外国語を母語とする患者へ簡単な挨拶や声かけをすることができる。
- ③ 言語・文化・慣習によってコミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。
- ④ ハングルを習得し,テキストの読解を通して語彙力を身につけ,韓国語で書かれた簡単な文を理解できる。
- ⑤ 旅行によく使われる表現など,実際の場面で役に立つ基本的な会話をを行うことができる。
- ⑥ 日本の文化との対比から隣国である韓国の文化を理解し,文化の多様性や多様な価値観を尊重できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
平常点	○	40%	語彙・文法の練習問題, 実技試験, 提出物など
定期試験	○	60%	記述式の筆記試験
態度	○	—	遅刻・欠席を含め受講態度不良の場合は, 10%を限度に減点する。

出席: 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

上記(2)で総合成績が60%未満の場合は,再試験を実施する。

再試験は定期試験に準ずる試験を実施する。60%以上を合格とする。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

毎回の小テストとレポートに対する解説は授業中に隨時行う。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
三訂版 パランセ韓国語初級	金京子/喜多恵美子	朝日出版社	韓国語を学習する初学者に適した内容であるため。

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
韓国朝鮮語初級テキスト ことばの架け橋 (말의 가교) (改訂版)	生越直樹/曹喜徹	白帝社	韓国語を学ぶのに必要な文法が丁寧に解説されているため。

6 準備学習（予習・復習）

- 予習は求められないが、復習は重要である。授業時間内にやり残した課題や十分に理解できなかつたところは、復習しておくこと。それでも不明なことがある場合は、早めに質問をすること。
- 語彙については、こまめに復習し、習得の機会を増やすことが重要である(1コマあたり約0.5時間)。
- ほぼ毎週行われる小テストの成績は配点が大きいので十分に準備して臨むこと(1コマあたり約40分)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本的な文字の読み方と、発音練習を授業内で繰り返し行う。また文法等の演習課題を行うことと、理解のポイントについての解説が授業の中心となる。少人数できめ細かい語学指導を行う。授業には、教科書と前週までのハンドアウトを持参すること。なおAB組の分け方は他の科目的分け方とは一致しないので注意すること。

(2) 講義の内容

韓国語を初めて学ぶ受講生を対象に、基礎的な文法や語彙の学習、初步的な言語の実践を通じて韓国語圏の文化や世界観を知り、その理解のプロセスによって多様な人々との協働、多文化に対する開かれた寛容な態度、想定外の諸局面に対応する柔軟性を培う。